

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社宝幸ビル大和プラント新築工事	階数	地上4F
建設地	大和市上和田字谷戸1997番3	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	200人
気候区分		年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年3月11日
敷地面積	16,246 m ²	作成者	日本ハム設計株式会社
建築面積	6,588 m ²	確認日	2014年3月12日
延床面積	17,089 m ²	確認者	日本ハム設計株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

環境品質 Q (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.0
Q2 サービス性能: 3.2
Q3 室外環境(敷地内): 2.5
LR1 エネルギー: 3.8
LR2 資源・マテリアル: 3.7
LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建蔽率、容積率ともにゆとりを持ち、緑地面積を十分に確保している。また中高木を多く植栽し、敷地内の温熱環境の向上を図っている。また、建物は空気質環境、機能性、耐用性・信頼性、と空間のゆとりを確保している。		・工事車両のアイドリングストップを行う。 ・建設機械は低燃費型車両をなるべく採用する。
Q1 室内環境 ・居室の仕上及び天井裏は全てF の材料を使用している。 ・事務室の有効開口面積比は0.08で自然換気性能が高い。 ・事務所スペースに喫煙室に2か所設置し喫煙を制御している。	Q2 サービス性能 ・天井高2.7m、リフレッシュスペースは3.6%とし、トイ壁VP、床長尺塩シート、外壁がFRP鋼板、床面に段差なし、など機能性を重視している。 ・給排水管はBランクで節水型便器・配管系統の分離・井水の利用など信頼性を高めている。 ・階高は事務所5.0m、工場5.7mとし、壁長さ比率0.06で空間のゆとりに対応している。	Q3 室外環境(敷地内) ・外構緑化指数53.7%で緑の量の確保をしている。 ・敷地周囲に緑地を設け壁面位置を後退している。 ・空地率は58.5%、中高木植栽により日陰を形成している。 ・空調室外機は大部分を10m以上の位置に設置している。
LR1 エネルギー 高性能断熱材、高性能空調機の使用	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓、節水型便器の使用で節水に対応している。 ・非構造材料におけるリサイクル材の使用を図っている。	LR3 敷地外環境 ・雨水浸透施設を設置している。 ・自転車置場、駐車場とも十分な台数を確保している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される